

楷

第六十八号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI

No.68

2019
FEBRUARY



<写真>

どうがめ虫
大豆葉又ハ蘿蔔ノ葉
ニツク虫ナリ大サ如图

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

—目 次—

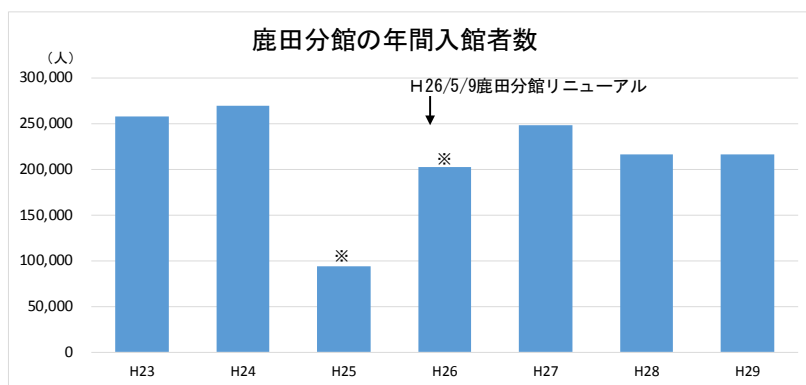
- 鹿田分館のあり方（鹿田分館長 森本美智子）…………… p.2
- 池田家文庫絵図展をふりかえって（岡山大学特命教授 倉地克直）…………… p.5
- マスカット…………… p.9
池田家文庫絵図展報告、学生・館長懇談会報告 ほか
- 会議・研修・編集委員から…………… p.14

鹿田分館のあり方

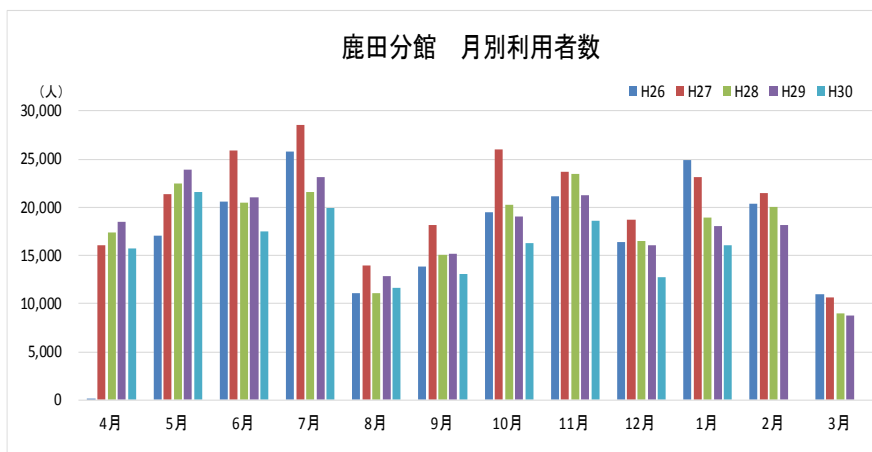
森本 美智子

鹿田分館の現状

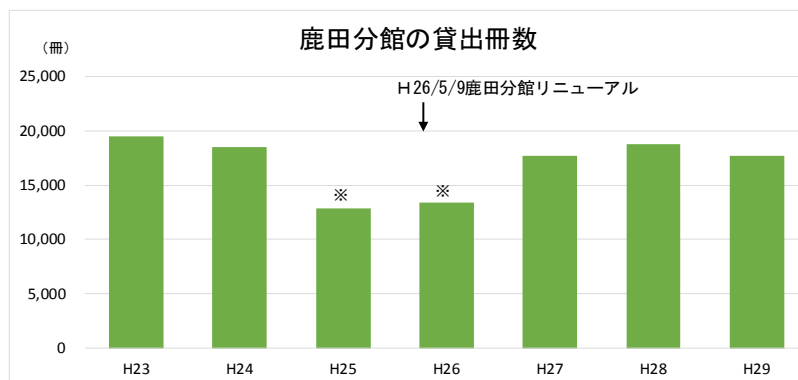
鹿田分館は、平成 26(2014)年 5 月に中央図書館と同時にリニューアルオープンし、閲覧スペースは 1.5 倍になりました。教育用パソコンも 10 台から 33 台に増設され、1 階にラーニングcommons、3 階にはサイレントスペースができ、学生の“学び”を促進するための学修環境が整備されました。24 時間特別利用や貸出冊数期間の延長など、学生の利便性を考えた取り組みも行われています。しかし、鹿田分館の利用者数は減少傾向にあるのが現状です。鹿田地区内の状況が変化しており、学生の学習環境やニーズが変化していることもあるでしょう。月別に見ると、平成 26(2014)年度までは国家試験を目前にして勉強を行う利用者がおり、1 月の利用者が多くなる傾向にありましたが、平成 27(2015)年 4 月に融合棟などが竣工されたこともあってか、1 月の利用者が増えるという傾向はみられなくなりました。60 分 4 学期制が導入されたのは平成 28(2016)年度です。貸出冊数には、顕著な減少は見られていませんが、利用者の推移のデータは何を意味しているのでしょうか。鹿田分館として、今後何を考えていかなくてはならないのでしょうか。



※H25年、H26年の一部は耐震改修工事（10月-4月）の影響を受けている



H26年のリニューアルオープン後のデータを示した



※H25年、H26年の一部は耐震改修工事（10月-4月）のため、記念会館2階多目的室を臨時図書館としており、貸出冊数も影響を受けている
 †5冊7日間貸出であったところを、H26年度より5冊14日間に延長した

知的好奇心を高める/広げる場

図書館としては、学生や教職員の学修を促進すること/知的好奇心を満たすことがひとつの役割だと思えます。現在は、ネット環境が整い、電子ジャーナルやオンラインデータベースなど図書館のホームページからアクセスできるようになっていますので、図書館に足を運んでもらうこと（利用者数（率））にこだわる必要はないのかもしれません。私自身も、図書館に足を運び資料や文献を探すことは、非常に少なくなりました。研究室に居ながら、情報を入手できるのですから非常に便利になったと言えるでしょう。しかし、一方でやはり学生や大学院生には、図書館に足を運んでもらい、多くの知識に触れ、思いがけないヒントを得てもらいたいと願うのです。私が大学院生であった頃や大学教員としてスタートした助手（助教）であった頃は、現在のようにネット環境は整っていませんでしたし、図書館の書庫自体も歴史を感じさせるものでした。鹿田分館の書庫の急な階段が上がったり降りたりと、資料収集に多くの時間を使ったことが思い出されます。非効率的だと思ったことも幾度とありました。しかしそのような資料収集の時に、思いがけない資料や文献に出会うこともあり、新たな研究や教育、実践へのヒントを見つけることもできたのです。そういった体験があるからこそ、学生や大学院生、新たに研究者や教育者のスタートを切った人々には、やはり図書館に足を運んでもらい、閲覧室の雑誌や本棚を眺めて手に取り、ページをめくってもらいたい、知らなかった領域への関心を広げてもらいたいと願うのです。

鹿田分館を利用する学生の特徴から必要なこと

第53回学生生活実態調査 (<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>) によると1日の読書時間が0分と回答した者（大学生）は53.1%であり、文系や理系の学生よりも医歯薬系の学生が「1日の読書時間が0」の割合が多く、アルバイトをしている者では64.5%、アルバイトをしていない者でも58.6%であることが報告されています。これは、読書時間を尋ねた調査ですので、医歯薬系の学生は論文などを読むことに時間を使っているかもしれません。

鹿田分館を利用する多くの者は、医療に関係しているか、将来医療職に就くことになります。医療やケアを提供する専門職者には、とりわけ正確な情報を入手し、科学的根拠に基づいた判

断を行い、ケアや技術を提供することが求められています。そのことを理解したうえで、文献や資料を活用することを学ぶことが大切なことであると考えます。専門的なことにだけ長けていればよいというわけではありません。病む人は非常に敏感であり、自分の前に立つ人（学生や医療職）が、いかに人として成熟しているかをよく見ていることを経験からも私は知っています。病む人と向き合う専門職者には、人として成熟するための深い教養も必要ですし、事象を深くより適切に認識できる力（考える力）が必須であると考えます。そういった意味で、思考を深めるための“読み”は非常に大切になるでしょう。私は、講義で図書館のデータベースの使い方をアナウンスしたり、思考が深まると考えるアクセスできる文献も紹介したりしますが、図書館のデータベースを利用せず、webで調べられることだけでレポートを書いてしまう学生が増えてきました。一方で、臨床実習の際には、優れた文献を手にして、目の前の患者のケアに役立つ情報はないかと専心している学生を目にすることもあります。カリキュラム上の制約もあり、レポート（講義）では、学生はゆっくりと時間を使って思考できない状況にあるのかもしれない。教育者として情報を活用することの意義、読むことの意義を学生の腑に落ちるように伝えきれていないのかもしれない。教育者として、何のために信頼性の高い情報を使わなくてはならないのか、図書館を利用して情報を活用することの意義や必要性、有用性を職業倫理とも結び付けて、学生にさらに浸透させていかななくてはならないと思います。

鹿田分館としての今後

情報リテラシー教育の必要性が言われて久しくなりました。鹿田分館として、情報リテラシー教育に参画できるように模索することも必要でしょう。カリキュラムの中に、図書館としてどう入り込んでいくか。これも課題と考えます。足を運んでくれるのを待つのではなく、学生の中に入っていくことが必要なのかもしれない。

また、今後の鹿田分館のあり方を考える時、学生のニーズを知ることも大切なことだと考えます。自分たちの図書館として鹿田分館がどうあるべきか、積極的に学生を議論の中に入れることも必要になってくるように思います。何よりも、OPACを一度も使用したことのない学生、鹿田地区で学んでいながら鹿田分館に一度も入ったことのない1年生、そのような学生がいなくなること、鹿田分館が、学生にとって身近な場所となるようにすることがまずは第一歩なのかもしれません。

(もりもと・みちこ 鹿田分館長)

池田家文庫絵図展をふりかえって

倉地 克直

岡山大学附属図書館では、毎年秋に「池田家文庫絵図展」を開催しており、昨年で22回を重ねている。絵図展を企画・監修してきたものとして、これまでの経緯をふりかえり、成果と課題について整理しておきたい。

池田家文庫は、江戸時代に岡山藩主を務めた池田家に伝来した資料で、岡山大学の開学に合わせて寄贈されたものである。以来、附属図書館では、その保存・公開・活用に努めてきた。池田家文庫のうちでも特に岡山藩政資料は、全国の藩政文書のなかでも質・量ともに有数のものであり、これまでも国内外の多くの研究者によって利用され、優れた研究が生み出されてきた。この流れをさらに進めるために、附属図書館では岡山藩政資料約6万5000点をマイクロフィルムにして公開する事業を企画し、(株)丸善の協力によって1993年(平成5)に実現した。これによって池田家文庫を活用する道は飛躍的に広がった。

しかし、この事業では約3000点と言われる絵図類は、マイクロ化の対象からはずされた。絵図類は大幅で極彩色であり、小サイズのモノクロフィルムによる撮影に適していなかったからだ。そのため、絵図類についても文書類と同じようにより簡便な方法で公開したいという強い思いが関係者の間にあった。その後、デジタル画像の撮影・公開技術が急速に発展したことをうけて、絵図類の高精細画像作成事業が学術振興会の援助のもとに進められることになった。折しも附属図書館では現在の西館が新築されることになり、その5階に貴重資料展示室が設けられた。そこで、これを利用して「池田家文庫等貴重資料展」を開催することになったのである。1997年(平成9)のことであった。この貴重資料展示室での開催は、2004年(平成16)まで8回行われている(付表参照)。



平成9年度池田家文庫貴重資料展
「絵図にみる岡山城」の様子

その間もデジタル化事業は岡山県立図書館や岡山市の協力によって順次進められた。とりわけ岡山市とは文化事業協力協定を結び、岡山市デジタルミュージアム（現岡山シティミュージアム）の開館にあわせて、その展示室を使用し、「池田家文庫絵図展」として共同開催することになり、2005年（平成17）から2018年（平成30）まで14回を行うことができた。図書館の貴重資料展示室は奥まっついて一般の市民の方には入りづらいうえに、会場も狭い。それに対してシティミュージアムは岡山駅に近接しており展示室も広いので、好条件に恵まれている。シティミュージアムと共同開催することで、展示内容も豊富になり、入場者数も大幅に増加した。この場を借りてシティミュージアムの関係者のみなさまに改めてお礼申し上げたい。

絵図はカラフルで一般の人にも親しみやすい資料である。そのため、博物館での歴史展示でもよく見掛ける。しかし、「絵図展」と銘打って毎年開催される展示会は、全国的にみても稀有ではないだろうか。このこと一つをとっても池田家文庫絵図類の豊富さがうかがえるだろう。

22回の絵図展を通じて、絵図を見る楽しさ、絵図をよむ面白さを、市民の方々に広げることができた。これが絵図展を続けてきた一つの成果だろう。開会式直後に行われる「オープニングトーク」には毎回50人以上の参加者があり、定着してきている。

二つは、絵図展を通じて池田家文庫絵図の存在が知られるようになり、絵図のデジタル画像や絵図データベースの利用が促進されたことである。「池田家文庫絵図公開データベースシステム」へのアクセス数は年間23,000～24,000回、高精細画像データの提供数も190～200点を数える。

三つは、絵図と文書類とを関連付けて展示・鑑賞するスタイルを定着させたこと。展示ではテーマに沿って毎回50点前後の資料を並べるが、そのうちの絵図と文書類の割合はほぼ半々である。これは文書も絵図も豊富な池田家文庫だからできることだ。絵図は親しみやすいが、その内容を読み取ることは実は難しい。文書だけでは退屈だ。両者をあわせて展示することで、鑑賞者の歴史理解を豊かにし深めていると言えるだろう。

四つは、展示会を重ねるにしたがって池田家文庫絵図の全貌が明らかになり、絵図研究が進化したこと。これまで表題しか理解されていなかった絵図が、展示の過程で性格が明確になり、絵図が当時どのように使用されていたか明らかになった事例も少なくない。毎回全国や地元から専門家を招いて講演会を行ってきたことも有意義であった。講演会はほぼ毎回満席の盛況だ。私事にわたって恐縮だが、私も展示会に関わったことを通じて『絵図と徳川社会—池田家文庫絵図をよむ—』（吉川弘文館、2018年）*を刊行することができた。

五つは、絵図を通じて歴史学と他分野との共同作業が進むきっかけを提供できたこと。東京大学史料編纂所・東京藝術大学・国立東京文化財研究所などの専門家によって元禄備前国絵図の復元が行われ、江戸時代の絵図制作技術についての多くの知見がもたらされた。その成果は2011年（平成23）「江戸時代の巨大手書き絵図」の展示によって一般にも広く知られることになった。それを踏まえて2016年（平成28）には目黒区美術館で特別展「色の博物誌 江戸の色材を視る・読む」が開催され、池田家文庫の国絵図5点が展示され、大きな反響があった。

毎回展示品の図録（無料配布）を作成してきたことも重要な成果と言えるだろう。これによ

*電子書籍版は右QRコードからアクセス(学内ネットワーク限定)。



て絵図類の内容や意味を広く知らせることができた。図録は附属図書館のホームページから閲覧可能になっている (<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/collections/iked.html>)。

22回を重ねた「池田家文庫絵図展」は岡山の歴史愛好家の間に確かに定着してきている。今後も現在の形式で継続されることが望ましい。絵図展の開催には、最初の打ち合わせに始まって、ほぼ7、8か月を要する。その間の関係者の苦労は並大抵ではない。その負担への敬意と配慮とは是非必要なことだろう。そのうえで気付く点について2、3述べておきたい。

一つは、絵図展では毎回のテーマ設定に苦労する。このテーマ設定には岡山藩政史や池田家文庫資料についての研究の深化が不可欠である。テーマにそった絵図類を選定するためにも研究の深化は欠かせない。大学内外の研究者との共同作業も必要だろう。

二つは、『池田家文庫総目録』でT:絵図に分類されたもののうち、現在も高精細デジタル画像が作成されていない絵図が一定数存在する。また、それ以外にも他の分類項目に所属する絵図類が多数存在する。破損が烈しいために撮影不能な絵図については、補修の手当も必要だ。これらの高精細画像制作は現在も進行中だが、その完遂が急がれる。

三つは、そのうえで現行の「絵図公開データベースシステム」をより正確で充実したものと構築していくことが必要である。その充実は絵図類の利用を高めるはずである。

以上のことはいわば絵図展の前提条件であり、絵図展開催と並行して逐次進めていかなければならないことだ。



平成30年度池田家文庫絵図展「岡山藩と寺社」の様子

絵図展が成り立つかどうかは、テーマの設定と資料の選定にかかっている。回を重ねるにしたがって、その苦労はいや増すことだろう。ときには、古い革袋に新しい酒を盛ることや、新しい革袋に熟成した古酒を入れることがあってもよいだろう。その点で関係者以外から知恵を借りることも有益だろう。鑑賞者の意見の集約は常に必要だ。開催情報の広報などの工夫も、一般からの意見に耳を傾けて努力すること。

「池田家文庫絵図展」は岡山大学附属図書館が世界に誇ることのできる学術的な社会貢献活動だと言ってよい。これが末永く続けられることを願ってやまない。

(くらち・かつなお 岡山大学特命教授)

<付表>開催一覧

年度	展示テーマ	会期	会場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後樂園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発(1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発(2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図—国絵図復元!	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム

マスカット

池田家文庫絵図展報告

平成30(2018)年11月3日(土・祝)～11月18日(日)に岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「岡山藩と寺社」を開催しました。

開会初日には開会式と企画・監修した倉地特命教授によるオープニングトークを実施、例年通りオープニングトークは大勢の方々にご参加いただきました。

また、11月10日(土)に記念講演会「池田家と国清寺」を開催、元岡山県立記録資料館長の在間宣久氏にご講演いただき、こちらも94名の参加を得ました。全体の入場者数としては1,419名となりました。来年度以降の池田家文庫絵図展もどうぞよろしくお願いいたします。



学生・館長懇談会報告

中央図書館では、平成30(2018)年12月13日(木)に、社会文化科学研究科、文学部、法学部、経済学部、教育学部所属の学生計10名の参加を得て、今年度2回目の学生館長懇談会を開催しました。

懇談会は年2回開催しており、よりよいサービスの提供を目指して、学生から図書館利用についての意見や要望を直接お聞きするために実施するものです。

この度の懇談会で、学生からは館内の資料撮影、マイライブラリ(webサービス)、開館時間延長、図書館設置の教育用パソコン等について質問や要望が出ました。懇談会終了後、学生からの意見を基に、サービス改善に取り組んでおります。

附属図書館では、今後も懇談会で得られる貴重な意見をもとに、よりよいサービス実施に努めます。

知好楽セミナー報告

「知好楽セミナー」とは、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした中央図書館の独自企画です。各界から多彩な講師をお招きし、ご好評をいただいています。

第20回「英語がナンボのもんじゃい！でもやっぱり勉強するなら楽しくしょうや〜」

日時：平成30(2018)年10月23日(火) 15:30～17:20

場所：中央図書館 本館3階セミナー室

講師：通訳者 山之内悦子

参加者：61名

カナダ在住で、国際的に活躍する講師から、英語の勉強法や、母語の大切さなどについて、ご講演をいただきました。熱意あふれるトークに、活発な質疑応答、交流が行われました。

第21回「International Book Day 附属図書館×L-café」(L-café との共催)

日時：平成30(2018)年12月12日(水) 14:00～15:30

場所：中央図書館 本館1階ラーニングcommons

参加学生(発表、司会者)：5名

参加者(観客)：31名

昨年度に引き続き留学生(韓国・イタリア・ウクライナ・中国)によるブックトークを行いました。留学生ならではの視点から紹介される本との、思いがけない出会いを楽しみました。

第22回「人に生まれて良かったと思える、虫の話」

日時：平成31(2019)年1月16日(水) 14:00～15:30

場所：中央図書館 本館1階ラーニングcommons

講師：岡山大学環境生命科学研究科教授 宮竹貴久

参加者：43名

話題作『したがるオスと嫌がるメスの生物学』の著者から、昆虫の生存と繁殖の戦略についてご講演をいただきました。「もっと話を聞きたかった」「続編に期待する」といった声が寄せられました。

ブックハンティング実施報告

ブックハンティングは、学生の皆さんが書店に出向き、図書館の蔵書に相応しいと思う本を選ぶイベントです。

中央図書館のブックハンティングは、平成30(2018)年10月24日(水)の午後に、丸善岡山シンフォニービル店で開催しました。3名の方にご参加いただき、61冊の本を選んでいただきました。

資源植物科学研究所分館では、平成30(2018)年11月7日(水)に、喜久屋書店倉敷店で開催しました。6名(学生4名、教員2名)の方にご参加いただき、68冊の本を選んでいただきました。



中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館 1F ロビー、本館 1F ラーニングコモンズ内の展示スペースで、当館資料を紹介する「ミニ展示」を実施しています。ぜひご覧ください。平成 30(2018)年 10 月～平成 31(2019)年 2 月は下記テーマで 実施しました。

- 10～11 月 「英語多読強化キャンペーン」
- 11 月 「男女共同参画特集」
- 12 月 「生協寄贈図書コーナー展示」
- 12～1 月 「さまざまなセクシュアルマイノリティ
について、知る。考える。7th」
企画展(学生相談室主催)
- 1～2 月 「英語多読おすすめ本紹介」
- 2 月 「International Book Day で紹介した本」
(知好楽セミナー関連展示)



平成 30(2018)年度「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」(冬) 実施報告

平成 31(2019)年 2 月 24 日(日)に附属図書館と教育学部の共催による「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を岡山後楽園で開催し、17 名(小学生 8 名、同行者 9 名)の方にご参加いただきました。

参加者は附属図書館所蔵の後楽園の昔の絵図(複製)を手に園内を回り、絵図に描かれた各時代の後楽園と現在の後楽園を見比べながら、後楽園の移り変わりを発見しました。最後のまとめでは子どもの視点ならではの発見の発表もあり、普段とは違った視点から後楽園に親しむ機会となりました。

サルトフロresta 展示報告

中央図書館本館 2 階のサルトフロresta では各種の展示を行っています。サルトフロresta 内イチョウエリアでは学内の研究成果を発表する「知恵の見本市」のポスター展示を実施しています。また、同じくクスノキエリアの展示スペースでは、学内の資源を使った様々な展示を行っています。具体的な実施内容は以下の通りです。

- ・「岡山県農林水産総合センターの紹介」

岡山県農林水産総合センターは、県の農林水産業を支える技術の開発と普及に取り組むとともに、担い手等を育成する総合的な機関として活動しています。このたびの展示では、センターに 5 つある研究機関の概要やその成果を紹介しました。



展示期間：平成 30(2018)年 10 月 15 日(月)～11 月 14 日(水)

展示場所：中央図書館 本館 2 階 サルトフロresta 内イチョウエリア

・文学部学芸員課程企画展「めくるめく紙の表情（かお）」
文学部学芸員課程の実習生たちが「めくるめく 紙の表情（かお）」という統一テーマのもと、ケースごとに企画テーマを設定しました。企画1では、文庫の背表紙にかかわる展示を行い、企画2では、百貨店の包装紙について、そのデザインと包み方に着目し展示しました。



企画展示1 「文庫のせなか」
企画展示2 「つつむ・おくる」

展示期間：平成30(2018)年12月6日（木）～12月18日（火）
展示場所：中央図書館 本館2階 サルトフロresta内クスノキエリア

・「池田輝政—西国の将軍と呼ばれた男」

戦国時代から江戸時代初期に活躍した戦国武将・池田輝政は、江戸時代に岡山・鳥取を支配した池田家の興隆の祖です。輝政は晩年には自らの領国である播州姫路のほか、息子の領地（備前・淡路）等も合わせると100万石近くにもなり、「西国の将軍」と呼ばれるほどでした。この展示では池田家文庫の史料を元に輝政の生涯を紹介しました。



※昨年度、岡山大安寺中等教育学校に展示した内容に資料を追加した再展示。

展示期間：平成31(2019)年1月7日（月）～3月
展示場所：中央図書館 本館2階 サルトフロresta内クスノキエリア

オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では平成30(2018)年10月～12月、平成31(2019)年1月にオリエンテーション等を実施し、延べ143名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション、ツアー

実施日	対象	参加人数
10月3日	放送大学学生	4
10月17日	新入生ツアー	3

ガイドランス

実施日	講習会名	参加人数
9月3日、10月16日、 11月8日	図書館・文献検索ガイドランス (教員の依頼により授業・ゼミ等で実施)	47
11月14日、16日、20日、 21日、22日、1月16～18 日、23～25日	ライティング・サポート・セミナー	58

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
1月30日	eol	31

○鹿田分館

鹿田分館では平成30(2018)年10月、平成31(2019)年1月に講習会を開催し、延べ14名の方にご参加いただきました。

データベース講習会

実施日	講習会名	参加人数
10月5日	医中誌 Web	6
10月24日	文献入手講座	4
1月31日	医中誌 Web	4

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

石原伸一 [教育学研究科]

教員政策と国際協力：未来を拓く教育をすべての子どもに

——明石書店，2018.11 (373.7/K)

倉地克直[特命教授]

絵図と徳川社会：岡山藩池田家文庫絵図をよむ——吉川弘文館，2018.6 (L291.75/K)

絵図と徳川社会：岡山藩池田家文庫絵図をよむ

——吉川弘文館，2018.6(Maruzen eBook Library)

岡山大学出版会からの寄贈図書リスト

藤鑑著[社会文化科学研究科]

中国の対外開放と経済の国際化——岡山大学出版会，2018.9 (332.22/T)

渡辺雅二著[環境生命科学研究科]

応用解析のための数値計算入門——岡山大学出版会，2018.9 (418.1/W)

会議

◆学外

- 30.11.15 第54回日本医学図書館協会中国四国地区
～16 総会(於：広島大学)
- 30.11.16 平成30年度国立大学図書館協会中国四国
地区実務者会議(於：山口大学)
- 30.12.7 平成30年度中国四国地区国立大学図書館
所管部課長会議(於：岡山大学)
- 30.12.13 第4回岡山県大学図書館協議会研修委員会
(於：岡山理科大学)
- 31.2.22 国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員
会総会(於：岡山大学)

◆学内

- 30.11.1 平成30年度第2回附属図書館運営委
員会
- 30.11.6 平成30年度第2回岡山大学出版会運営委
員会
- 30.12.20 平成30年度第2回貴重資料委員会・第1回貴重
資料刊行推進合同会議
- 31.1.23 平成30年度第3回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成30年度大学図書館職員短期研修
参加者 水内 勇太(10.2～5)
- ・第59回中国四国地区大学図書館研究集会
参加者 藤井 香子(10.18～19)
- ・平成30年度国立大学図書館協会シンポジウム
参加者 大園 隼彦、水内 勇太(10.19)
- ・平成30年度第6回図書館職員等研修講座
参加者 山田 智美、羽田 まどか(11.19)
- ・平成30年度岡山県大学図書館協議会講演会
参加者 森谷 めぐみ、塩尻 章代
川上 研三(11.19)
- ・平成30年度国立大学図書館協会地区協会助成事業
(中四国地区)ワークショップ
参加者 中山 千佳子(11.30)
- ・クレーム対応講習会
参加者 学内31名 学外8名(12.19)

編集委員から

図書館報「楷」をお届けします。修了される方へ。学生生活の中で経験したこと、これから新しく経験すること、きっとどこかで役に立ちます。好奇心を持ってたくさんの経験を積んでください。岡山大学附属図書館は利用登録すれば、学外利用者としてご利用いただけます(貸出冊数・資料等、学生とは利用範囲が異なります)。またどこかでお目にかかれるのを楽しみにしています。(E.I.)

岡山大学附属図書館報「楷」 No.68 平成31(2019)年2月28日
発行人 大元利彦 編集 広報ワーキング
岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1
ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>